



▲8月に大平地区に新設する白石市学校給食センター

平成27年度

# 施政方針

2月17日、風間康静市長が第414回白石市議会定例会で施政方針演説を行い、平成27年度の市政運営の基本的な考え方を明らかにしました。

「第5次白石市総合計画」に掲げている「人・暮らし・環境が活きる交流拠点づくり」に全力！  
 その中でも 教育の充実や住宅の整備など  
 新たな子育て世代への重点施策の充実に努める！



▲2月17日、議場で施政方針を述べる風間市長

## 東日本大震災から4年が経過 震災からの復興を加速！

放射能対策は、「白石市除染実施計画」に基づき、これまで「子ども空間」の除染作業を優先的に実施するとともに、民有地の追加被ばく線量を年間1ミリシーベルト以下になることを目指し、除染実施計画区域内の対象民有地の除染作業を実施して、空間放射線量の低減化を図ってきました。

本年度は除染作業を実施した民有地の事後モニタリングを実施することで、除染効果が持続されていることを確認し、市民の安全・安心に努めます。

また、焼却灰の収集・保管は、小原、越河、斎川地区に続き、大鷹沢地区、八宮・深谷地区に仮置場を設置できたことから、大鷹沢地区は平成26年11月から、八宮・深谷地区は平成27年2月から収集・保管を開始しています。これ以外の地区も、引き続き地区ごとの仮置場設置に努め、地域住民の理解を得た地区から順次、収集・保管を行います。

空間放射線量の測定と食品などの放射能濃度の測定は継続し

て実施し、市民生活の安心・安全を確保するとともに風評被害を払拭するよう努めます。さらに、4年連続となりますが「塩化カリウム肥料」を水稻作付け農家全戸に配布し、安全・安心な米作りを支援するなど、風評被害から全力で地域農業を守ります。

### 「第5次総合計画」5年目

本年度は、「第5次白石市総合計画」の5年目。引き続き総合計画に掲げた施策を通し、「共汗・共学・共生」を基本理念とした市民総参画のまちづくりを推進して、次の世代に誇りを引き継ぐことができる「ふるさと白石」の実現を目指します。

産業の振興や雇用の確保を図るための企業誘致は、昨年2月、宮城県庁において立地協定を締結した「株式会社TBM」の白石工場が大鷹沢地区に完成し、2月下旬に操業を開始します。これは、地域経済の活性化や地元雇用の創出につながるものとして、大きな期待を寄せています。

### ●放射能対策事業（事業費：5,730万4千円）

除染作業を実施した民有地の事後モニタリングを実施し、除染効果が持続されていることを確認して、市民の安全・安心に努めます。また、焼却灰の収集・保管も、引き続き地域の皆さんの理解を得ながら、地区ごとの仮置場の設置に努めます。

また、白石インター工業団地は「セコム工業株式会社」と「株式会社Paltac」が立地し、ほぼ完了の状況ですが、残る用地と白石市土地開発公社が取得した隣接地を合わせた約1.7ヘクタールの工場用地の造成工事が3月末に完了する予定で、4月以降、企業立地が可能となります。今後も、私、自らがさまざまな機会をとらえてトップセールスを行うとともに、宮城県をはじめ関係機関や市議会議員の皆さんと力を合わせて、さらなる企業誘致に向けた活動を積極的に進めます。

## Target1

### 豊かな感性と人間性を育み 伝統文化を継承するまち

学校教育の充実、児童の確かな学力向上のため、平成25年度に導入したパソコンや電子黒板、校内無線LANなどの学校ICT環境機器を活用した学習への取り組みを推進するとともに、小中学校に任期付き教員を採用し、1学級35人の少人数学級を実施することで、子どもたち一人一人にきめ細かな指導を行い、教育効果を高めます。

さらに、市独自に全学年を対象とした「学力調査」を引き続き行い、学力の全体的な底上げを図ります。

また、8月には学校給食衛生管理基準を満たし、食物アレルギーにも対応できる新学校給食センターを大平地区に建設します。学校給食の充実に努めるとともに、うーめんなどの地場産品を提供し、郷土食を通じた食育の推進に努めます。

文化・体育施設での事業やイベントを通して、市民の一層の生涯学習の推進を図ります。歴史文化の継承と創造は、白石城茶会や白石城歴史探訪ミュージアムでの企画展、武家屋敷や検断屋敷での伝統行事の再現、碧水園での能公演などを通して、白石の魅力を感じる場を創出します。

加えて、白石城やすまいるひろば、沢端川などを活用した歴史情緒を体感できる城下町回遊ルート、特に沢端川沿いの桜並木のライトアップや、「沢端川の環境を守り鯉を育てる会」などと連携した沢端川周辺の環境保全と観光振興を図り、交流人口の拡大に努めます。

### ●学校給食センター整備事業（事業費：10億812万9千円）

食物アレルギーへの対応、施設の老朽化と規模の縮小に対応するため、学校給食センターを新設します。

### ●少人数学級編成・特別支援学級等サポート事業（事業費：5,509万1千円）

小中学校に任期付き教員を採用し、1学級35人の少人数学級を実施するとともに、児童生徒に対し、支援員が学習・学校生活などの補助を行い、きめ細やかな指導を行います。



①武家屋敷「笹巻きの会」  
 ②検断屋敷「団子さし」  
 ③碧水園「舞台開き」